TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

信仰から繁栄へ　コロサイ人への基本事項　死がふたりを分かつまで
コロサイの信徒への手紙 3:1-4, (5-15)

2024 年 10 月 12 日 & 13 日
ジェシー・マーク・セザリオ　牧師

礼拝に参加されている皆さん、こんにちは。TBC ウエスト トウキョウ、TBC 三郷、スヴァバプテスト教会、トンガバプテスト教会の皆様にもご挨拶します。今日、恵みがありますように。

祈りましょう

コロサイの信徒への手紙3:1−4
「[1] あなたがたはキリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。[2] 上にあるものを思いなさい。地上のものに思いを寄せてはなりません。[3] あなたがたはすでに死んで、あなたがたの命は、キリストと共に神の内に隠されているからです。[4] あなたがたの命であるキリストが現れるとき、あなたがたも、キリストと共に栄光に包まれて現れるでしょう。」

はじめに
もう一度、パウロがコロサイの信徒にこの手紙を書いた目的を思い出しましょう。覚えているかもしれませんが、コロサイの教会は新しく誕生した教会で、エパフラスが地元のコロサイへ福音のメッセージを持ち帰ったことによって、その教会が生まれました。教会は、力ずくでもなく、哲学によってでもなく、人間の知恵によってでもなく、福音の力によって誕生したのです。この力は今でも世界を踊らかせています。

パウロはこの手紙を、他の手紙と同様にまだ若い教会に向けた神学の基本から始めています。それは、教会が強く、正しく霊的に形成されていくためです。

パウロは、イエスが「見えない神のかたちであり　すべてのものが造られる前に最初に生まれた方」であると教えています。つまり、イエスは最も高い存在―ヤハウェである神―であり、かつ私たちのように、この地上までにも来た「新しい人」なのです。

パウロはさらに、イエスが万物を造られたのは、本当にすべて―天にあるものも地にあるもの―だと語ります。すべて目に見えるもの、目に見えないものです。さらに、イエスによって今現在も万物が成り立っています。今もなおここにいて、今もなお私たちの生活に関わり続けています。

人間は神のかたちに創造されたものの、人間は神のかたちを保ちませんでした。これが「罪」です。そして、罪が最初の人間アダムを通して世界に入ったように、死がすべての人に広がりました。私たち一人ひとりを汚染し、私たちはだれもが罪を犯したので、死をも受け継いだのです。

今、この世界の贖いが始まっています。この贖いが始まるのは、創世記のように最初の創造物と共にでも、光と闇と共にでも、星や天と共にでもなく、むしろ万物の贖いは人間―最後の被造物―から始まっています。私たち教会のことです。私たちはこの世界の贖いの始まりです。

万物の贖いはもう始まっていますが、まだ完成されてはいません。このことを理解しないといけません。贖いの過程は始まっていますが、まだ完了していません。そして、福音はこの始まりの宣言です。
イエスの統治は始まっており、御父の右の座に着いていますが、イエスの再臨はまだです。私たちは「それまでの間」に生きています。

その「間」に、パウロは私たちに何をすべきか、どう生きるべきかを教えます。これがコロサイの信徒への手紙第 3 章の主題であり、今日私たちが学ぶ内容です。

状況

「[1] あなたがたはキリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。[2] 上にあるものを思いなさい。地上のものに思いを寄せてはなりません。」

これは難しいことだと認めます。天に、キリストがいる場所に集中することは、地上で多くのことが起きていると難しいのです。パウロもこれを知っていたからこそ、コロサイのクリスチャンに、天に集中する習慣を持ってほしかったのです。

この教えは、天に集中しすぎて地上で起こっていることに対して遮眼帯をつけることではありません。遮眼帯は馬の目を覆って前だけを見るようにするものです。この教えは、現実から逃避するためではなく、むしろ現実を直視し、地上の事柄を適切に扱うためのものです。

これは当時一般的だった禁欲主義とはまったく異なる概念で、パウロは禁欲主義を 2 章で否定しています。パウロはこう言いました。**「あなたがたは、キリストと共に死んでこの世のもろもろの霊力から離れたのなら、なぜ、この世に生きている者のように、『手を付けるな、味わうな、触れるな』などという規定に縛られているのですか。」**

キリスト教は現実からの逃避を教えていません。むしろ新しく生まれ変わった男性、また女性として、どう現実を扱うかを教えます。

「求めなさい」という言葉は能動的な状態を表しており、いくつかの翻訳ではギリシャ語から「求め続けなさい」と訳されています。つまり、キリストの御座の常に目を向け続けるという意味です。求め続けることは習慣なのです。あなたは求めることを習慣にしていますか？

実例
日本の最初の仕事で、川崎の公立の学校で数年間働いていました。週に何日でした。席に案内されたとき、少し驚きました。

アメリカの IT 業界で働いていたときは、いつも仕切りのある個人用スペースで仕事をしていました。でも、ここでは個人用スペースがありません。仕切りがありませんでした。すべてがオープンでした。さらにひどいことに、灯油ストーブのすぐ隣の席でした。ものすぐ近かったです。滑るか何かしたら、火傷するほどの近さです。それだけではなく、熱かったです。そのストーブは本当に強力でした。私はイトーヨーカドーのスーツで汗だくになりました。

そして、こう考えました。週に 2 日しか来ないから、この席になったのだろう、と。大丈夫。その後、毎年席替えがあると聞いて、次はもっと涼しい席がいいな、と伝えました。

で、席替えがあり机が変わりました。今度は真正面に副校長がいました。つまり「上司」です。王様の正面に座っている気分でした。自分の行動をいつもためらうようになりました。携帯や自分のパソコンを見すぎてないか。休憩の時間とりすぎたか。今でも当時を振り返えると、少し緊張します。

今は、危険な状況にはいません。でも、当時を思い出すと、その時の緊張感がまたよみがえります。ただ思い出すだけで、です。

パウロがここで強調しているのは、信徒として神の怒りを感じることではなく、完成された神の王国がどのようなものであるかを求めることです。神の存在を感じ、地上にいながら天国での体験を味わうことなのです。そして、その感覚を振り返ることです。

実際には、神の形を受け入れるように、私たちが「間」にいるこの時、今ここで、神の愛やその他のご性質を体現する召しです。

あなたは上に目を向ける習慣はありますか？どのくらいの頻度ですか？上にあるものを求め続けていますか？

パウロは **2 節**でも同様にこう言います。**「上にあるものを思いなさい。地上のものに思いを寄せてはなりません。」**つまり、習慣的に意識を向けるのは上であって、この地上ではないのです。

2 回言うということは、私としては、警告だとも思えます。

ヨブ記で、サタンが神の御前に来て、最初に話そうとしたことは何だったでしょうか？その時の会話を覚えていますか？神はこう聞きました。**「あなたはどこから来たのか。」**サタンは答えました。**「地を巡り、歩き回っていました。」**サタンの関心はすべて地上にありました。

神からの質問に対する応答は、心にあるものを示します。サタンは地上で起こっていることに執着していました。神の裁きが来ると知りながらも、地上のことに夢中なのです。

あなたはどうですか？何故なら、私たちはこうであってはなりません、キリストにあるなら「死んでいる」からです。私たちはこの世が勧めているものに対して死んでいるのです。パウロは **3 節**でこう言います。**「あなたがたはすでに死んで、あなたがたの命は、キリストと共に神の内に隠されているからです。」**この死は、地上とこの世が勧める良いものに対する死です。

私たちは次の質問を自分に聞かないといけません。「私は本当に死んでいるのか？」

注目してください。3 節が 1 節と 2 節にどう影響しているのかを。なぜなら、3 節の状態にいなければ、1 節と 2 節を実践できないのです。

つまり、キリストにあって死なない限り、上にあるもの、霊的な領域にあるものを求めて受け取ることはできませんし、神の御臨在にいることがどういうことなのかも理解できません。

キリストを信じる者は、キリストにあって死んだ者です。そして、聖霊によって生きるからこそ、キリストにあって生きる者なのです。

肉の心では、霊的な領域を理解できません。見ようとしても、間違った理解となり、多くの場合は完全に間違えます。

肉の心では、霊的な次元を見ることはできません。

2D（2 次元）の世界の人が、3D（3 次元）の物を見ようとしたら、何が見えると思いますか？その物体のごく一部しか見えません。全体は見ることができません。ほんの薄い断片だけです。たとえば、2D の立方体はただの四角形や、見る角度によって六角形に見える程度です。

同じことが画家にも言えます。平らな 2D の紙に何かを描くとき、3D に見えるように描こうとしても、実際には 3D ではありません。色や影をつけて 3D のように見せているだけです。画家はある意味詐欺師です。何故なら、絵が 3D に見えても、実際の絵は 3D ではないからです。

ここでの重要なポイントは、私たちは 3D の世界に住んでいるからこそ、絵に 3D の特性や雰囲気を感じ取れるのです。

言い換えれば、3D の世界に生きたことがなければ、その絵は自分の世界とは違う世界のものに見えるでしょう。何を見ているのかさえわからないでしょう。

これは、クリスチャンやノンクリスチャンの状態にも似ています。

クリスチャンは一度光に照らされ、天からの賜物を味わい、聖霊にあずかる者となれば（**ヘブライ 6:4**）、地上という低次元に生きながらも、高次の霊的な領域がどのようなものかを知っているのです。

クリスチャンだけが真実を知っていて、その他の真実を主張する者、キリストを信じていない者は偽物であり、その人たちの先生は詐欺師です。今日の世界にはそういう人々がたくさんいます。YouTube には特に多いです。

パウロは教会に示しました。「あなたがたはすでに死んで、あなたがたの命は、キリストと共に神の内に隠されているからです。」私たちの本来の存在は、地上の目に見える所ではありません。キリストがいる場所、キリストが治めている霊的な領域にあるのです。

あなたは真実を知りたいですか……高次元のことを知って、この世から解放されたいですか？

すべてを統治する唯一の方の善さを知りたいですか？そして、神の王国が何であるかを知りたいですか？

そのための方法は一つしかありません。自分自身とこの世に対して死に、神の御子イエスを主として、救い主として受け入れることです。イエスを受け入れることで、あなたはこの汚れた世界から解放されるのです。

これこそが、イエスが来られた理由です。私たちを「今の悪の世から私たちを救い出そうとして」います（ガラテヤ 1:4）。

神の御前で

そこで、パウロは 4 つの文章（私はとてつもなく深いパウロの教えが大好きです）で、イエスの再臨で完成されるものの 2 つの側面を織り交ぜています。

1 つ目の側面は栄光で、2 つ目は来たるべき怒りです。この 2 つのことが、「それまでの間」にどう生きるべきかを思い出させてくれます。

1 章から、パウロには目的がありました。それは、28 節に書かれているように、私たちが生きる「それまでの間」に、すべての人を、キリストにある完全な者として立たせることです。

教会をキリストの前に立たせるということは、万物の贖いの計画における神の最終目標を理解する鍵です。
エペソ人への手紙 5:27 にはこうあります。「しみやしわやそのたぐいのものは何一つない、聖なる、傷のない、栄光に輝く教会を、ご自分の前に立たせるためでした。」

私たちも「主も、あなたがたを最後までしっかり支えて、私たちの主イエス・キリストの日に、非の打ちどころのない者にしてくださいます。」（1コリント 1:8）から安心できます。

では、次の質問です。「教会の外にいる人たちはどうなのか？」

教会の外にいる人たちは、神の怒りに直面します。
パウロがここで言いたいことは、今や私たちは教会の中にあり、隠されてこの世の外にいるので、もうこの世の中と同じように歩まないようにするということです。

パウロが言及しているこの世の歩み方は、淫らな行い、汚れた行い、情欲、悪い欲望、および貪欲です。これらはすべて、神がデザインした性的関係から逸脱した性的行為です。神が望んでいるのは、聖く、神を讃える結婚の絆の中での関係です。

そして、パウロは理解しています。教会ですらこういったことが周囲に起こって、苦労することを知っています。重要なのは、パウロが彼らに洞穴に閉じこもるようにとは言っていないことです！パウロはまさに禁欲主義は正しくないと説いたばかりです。

これらの罪は、その最終段階に至ると、悔い改めない者は教会から追放される可能性が高いです。5節にあるこれらの行為は、教会の中で起きてはいけないため、対処が必要です。

しかし、教会は依然としてこれらの問題に直面せざるを得ず、パウロはどう立ち向かうかを説きます。パウロは恐れよとは言いません。逃げよとも言いません。正面から立ち向かえと言っています。
その方法として「殺してしまいなさい」と言います。

この言葉は、ギリシャ語で「Νεκρώσατε（ネクロサテ）」と言い、ストロング・コンコルダンス（聖書語句辞典）によると「死に至らしめる、死んだものとする、弱める、または無力にする」という意味があります。

実例
ある有名な空手映画のパート2のシーンを覚えています。80年代に私が子供のころに見た映画です。その映画では、小さな女の子が死の危険にさらされていました。しかし、敵の空手家の甥はその子を助けませんでした。それで、おじが甥に言いました。「もう、お前にとって私は死んだのだ」

私はその時10歳くらいで、どういう意味だろうと不思議に思いました。深刻なことだとは分かりましたが、次にどうなるのかはよく分かりませんでした。二人はしばらく立ったまま、互いににらみ合っていました。

映画の後半で、そのおじが甥にまた別の少女を人質に取るのを止めようとすると、甥はこう返しました。「あんたは、俺にとって死んだよな？」

その時、私は理解しました。これは、おじが生きているのに、二人の間にはもはや何も関係がない、という意味だったのです。したがって、おじにはもう甥に対する権威がないのです。

これは、私たちがこの世的な部分をどう扱うべきかに似ています。なぜなら、この世は、人々を引き込む方法を知っているからです。私たちの中にある邪悪な部分を満たすことです。ただ、それを手に入るようにするだけでよいのです。

今日の文化では、マーケティング、カラーテクノロジー、習慣記録やAIを使い、デバイスを通じて、今までで最も魅力的なもので私たちの目を楽しませています。

そして、それは至る所にあります。今はこの世界から逃れられません。この世の中にいる限りどこにでもあります。逃れることはできません。

しかし、真実があなたを自由にするでしょう。これが聖書の語る真実です。あなたは、この世に対して死んでいるのです。

悪の存在を認識できます。この世の基準や肉の思いで見れば、どれほどよく見えてしまうかも理解できるでしょう。しかし、キリストにあると知れば、そういったものに対してあなたは死んでいます。もうあなたに対して、権威も力もありません。

あなたは、この世が称えるものに心を引かれますか？情欲、悪い欲望に苦しんでいますか？

悪のいる低次元の先を見ましょう。低次元はあなたに対してなんの権威もありません。そして、キリストを通して、あなたはすでに光に照らされ、天からの賜物を味わい、聖霊にあずかる者となっています。（ヘブライ 6:4）。あなたは高次元に存在しています。父の右の座に着いている御子を仰ぎ見ましょう。

こういった誘惑に遭うときは、「憐れみを受け、恵みにあずかって、時宜に適った助けを受けるために、堂々と恵みの座に近づこうではありませんか。」（ヘブライ 4:16）

これでおわり？
コロサイ3章のここでやめていいとは思いません。というのも、教えはまだ完結していません。私たちは、自分の中にあるこの世の邪悪なものを望む部分をすでに死なせたと言うことはできますが、それでは不十分です。

2つの部分、または2つの行動が必要です。3節の最初の部分「私たちは死んだ」だけでは語れず、キリストにあって生きていることも言う必要があります。

5節に挙げられている罪、つまり淫らな行い、汚れた行い、情欲、悪い欲望、および貪欲は、教会の中では認められません。これらの罪を悔い改めないなら、教会での指導を受け、最終的に悔い改めるまで除名されます。

しかし、8節と9節に記されている罪、怒り、憤り、悪意、冒瀆、口から出る恥ずべき言葉、そして嘘は、教会内で普段から見過ごされがちです。考えても見てください、パウロの目標は、教会を主イエスの前で聖なるものとして立たせることです。

ここで2つの行動があります。1つ目の行動は、古い自分、つまりアダムを脱ぎ捨てることです。2つ目の行動は新しい人、つまりイエスを着ることです。

古い自分を邪悪な行いと共に脱ぎ捨てる、つまり嘘にまみれた欲望によって腐敗したかつての生き方に属するものを捨てるのです。それから、新しい人を着る、つまりキリストの姿の知識によって、新たにされるのです。

死ぬことで、古いアダム、つまり怒り、憤り、悪意、冒瀆、口から出る恥ずべき言葉、嘘を脱ぎ捨てましょう。

キリストにあって生きている今は、キリストを着ましょう。それは、慈悲、親切、謙遜、柔和、忍耐、お互いを赦し合うことです。そして何よりも、愛し合いましょう。

これが、キリストにあっての死と生です。
「私にとって、生きることはキリストであり、死ぬことは益なのです。」（フィリピ 1:21）

ようやくここで、パウロは平和を呼びかけます。文化的な違いがあっても、です。わかりますよね、TBCの皆さん。ここはとても国際的な教会で、それは私たちの教会が美しい理由の大きな部分です。これは感謝すべきことです。

私たちはそれぞれ、さまざまな人生を歩み、異なるやり方、表現や文化を持っています。そして、時には文化の衝突が起こることもあります。当たり前のことで、パウロは小さなコロサイの教会にさえ、出身やどんな人物かにかかわらず、みなが一つにならないとだめだと説いています。

キリストはすべてであり、すべての中におられるのです。

おわりに

アダムとエバが罪を犯した後、最初にしたことを覚えていますか？

罪を犯した後、隠れようとし、聖書によると、二人は園の木の間に隠れ、主の前から逃れようとしました。

すると、主がやって来て、アダムに問いかけました。「どこにいるのか？」

彼は答えた。「私はあなたの足音を園で耳にしました。私は裸なので、怖くなり、身を隠したのです。」

アダムの心にあったものはこれです：**恐れ** 。

これは、アダム以降すべての男女の心にあるものです。アダムのように、私たちは皆心の奥底で、自分の罪によって、罪に定められており、私たちに死をもたらすのもまた自分の罪だということを理解しています。

今まで、私たちはこの世にあるものに命を求めてきましたが、私たちは神に対して死んでおり、神も私たちに対して死んでいたのです。

私たちは恐怖に支配されています。あなたもそうですか？
聖書は私たちに「恐れるものはない」と教えています。

「愛には恐れがありません。完全な愛は、恐れを締め出します。恐れには懲らしめが伴い、恐れる者には愛が全うされていないからです。」(ヨハネー 4:18)

主なる神は私たちのために来られました。私たちを命に呼び戻し、二度と死を知ることのないようにするために。なぜなら、キリストにある私たちは隠されており、いつでも神の御前にいるのです。

お誘い

皆さんは自由になり、神と神の善さのすべてがあるところで、恐れることなく生きたいと思いませんか？

イエスは言われた。「私は復活であり、命である。私を信じる者は、死んでも生きる。生きていて私を信じる者は誰も、決して死ぬことはない。このことを信じるか。」(ヨハネ 11:25-26)

イエスが主であると信じましょう。イエスが治め、救い、命を与え、私たちはもう死もこの世のどんなことも恐れる必要がありません。
「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。御子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ 3:16)

愛には恐れがありません。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg4224jp

★クラス 301
私の賜物ってなんだろう？
10 月 20 日（日）1:00pm - 5:00pm
参加条件：クラス 201 まで修了し、TBCメンバーの方

★クラス 401
人生の使命を発見する
11 月 3 日（日）1:00pm - 5:00pm
参加条件：クラス 301 まで修了TBCメンバーの方

https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu